

Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



KODAMA in 1997

《 KODAMA 》

今回の話は度々書かせてもらったニューヨーク時代にウェイターとして4年間お世話になったレストランの話。W45th Streetと8th Avenueの角付近に1980年代から30年あまりに渡って営業を続けていた「KODAMA」。

ウェイターとしてお世話になっていた当時は「KODAMA RESTAURANT」という店名だったが、その後「KODAMA SUSHI」に代わり、一昨年オーナーだったオヤジさんが韓国人に店を売却。それを機にオヤジさんはレストラン業を引退して、ニューヨークを引き揚げて日本に帰国した。

現在も「KODAMA」の店名は残されたまま同じ場所で営業されているが、オーナーが代わったのを境に常連だったお客様さんたちの足も遠のいて行き、嘗ての「KODAMA」とはいろいろな面で様変わりしてしまったようだ。

自分がお世話になった頃から、かれこれ20年程の月日が経ってしまったが、その後自分のように日本に引き揚げた当時のウェイター、ウェイトレス、バーやキッチンで働いていた仲間、当時からずっとニューヨークで暮らしている仲間も多く、Facebookやメールなどで定期的な連絡を取り続けている。オヤジさんが帰国した時も仲間が集まり、また、誰かがニューヨークから一時帰国した時も集まったりと今年だけで4回ほど集まった。自分たちが働いていた時代以降に「KODAMA」で働いた若い世代の人たちもオヤジさんやHideさんという当時マネージャーだった人を慕って20人くらいが一堂に会する機会もあるなど、世代を超えて「KODAMA」ファミリーのような集まりになることもある。

今でも「KODAMA」会と称して、当時の仲間が集まったり、世代を超えた「KODAMA」ファミリーが集まれることはかけがえのないことだと思っている。みんな「KODAMA」を離れた後は、様々な場所で様々な仕事に就いて頑張っているが、みんな「KODAMA」での懐かしい思い出があるから今も集まって来るのだろう。生まれた年代も、出身地も、生い立ちも異なる人たちが、ニューヨークの街角に佇んでいた一軒のレストランでそれぞれの人生の一部を過ごしたというのは単なる偶然ではないはずで、みんなが集まると一気に当時の空間に戻ってしまう気がする。お互いに歳を取るのは当たり前だが、学生時代とも全く異なるそんなかけがえのない思い出や仲間がいることは本当に貴重だと思う。

若い頃にニューヨークに渡る人たちは留学だったり、音楽やダンス、演劇、アートの世界で夢を抱いて海を渡る人が多い。現地では夢は叶わなかったが別の道で頑張っている人たちもいれば、旅人や得体の知れない人たちも居たりするが、ニューヨークという街はそんな人たちのパワーで溢れている。それぞれの想いや願い、また、思い出や魂なども渦巻いているような気がする。自分も日本に引き揚げる際にニューヨークに魂の半分は置いてきたつもりだ。

「KODAMA」を支え続けたオヤジさんは80歳を超えて、日本に引き揚げた以来、体調もあまり思わしくないようだが、来年辺りにオヤジさんを囲んで、嘗て「KODAMA」で時を過ごした人たちが集まれるような会、現在行方不明になってしまった人たちも多いが、何とか探し出して「KODAMA」会を盛大に出来ればと思っている。